

&lt;研究成果の紹介&gt;

## 極早生の甘ガキ新系統「早秋」の特性

園芸グループ

### 1. 成果の内容

#### (1) 来歴

カキ新系統「早秋（安芸津13号）」は、農林水産省果樹試験場カキ・ブドウ支場で「伊豆」を母親に、「109-27」を花粉親に交雑、育成されました。平成8年からカキ第5回系統適応性検定試験で農業技術センターをはじめ、全国27都府県の試験場でその特性を検討してきましたが、早熟で食味の優れた完全甘ガキとして有望であるとの結果から品種登録出願されることになりました。

#### (2) 特性の概要

樹勢は中庸で、樹姿は開張と直立の中間です。雄花は着生せず、雌花のみを着生し、その程度は「前川次郎」よりやや多い傾向で、開花期は「前川次郎」とほぼ同じです。「伊豆」の形質を受け継いだ影響か、新梢が二次伸長しやすく、前期落果がやや目立ちますが、後期落果は少なく、種子形成力は「前川次郎」よりやや強く、受粉をすれば生理落果による収量への影響はないと考えられます。

成熟期は「前川次郎」より1ヶ月早く、「西村早生」と同等かやや早めの9月末頃です。平均果重は236gで「前川次郎」よりやや小玉ですが、糖度は14.8%、多汁で肉質（緻密さ）も中程度で食味は良好です。

果実の外観は「前川次郎」と比較してやや腰高で、ヘタスキはやや多、果頂裂果は少なく、汚損果の発生は同程度です。

### 2. 技術の適用効果と適用範囲

「早秋」は、極早生で食味のよい完全甘ガキとして、市場での商品性は高いものと思われます。現在、「西村早生」を栽培している他県の産地では、これに取って代わる品種になる可能性が十分あります。

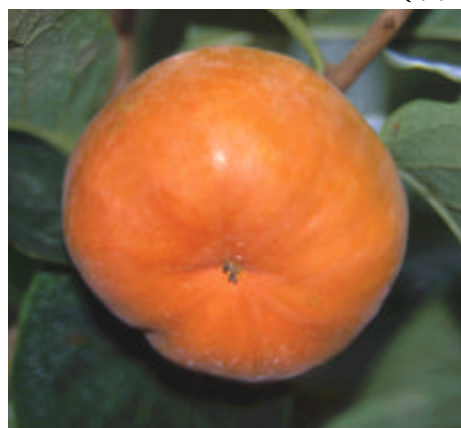
本県での導入適地としては、雨の多い地域での炭そ病の発生程度を検討する必要がありますが、現在のすべてのカキ栽培地域で栽培可能と思われます。

### 3. 普及、利用上の留意点

樹勢を中庸に保ち、着果量、施肥量や土壌水分を適正に管理すれば、それほど栽培が難しい品種ではないと思われます。

なお、現在、品種登録出願中のため、実際に苗木が供給されるまでには2年程度かかる見込みです。

(西川 豊)



「早秋」の結実状況

表1 開花期および収穫期 (農技センター、H11)

品種名	開花期(月/日)			収穫期(月/日)		
	始	盛	終	始	盛	終
早 秋	5/19	5/21	5/24	9/20	9/30	10/18
前川次郎	5/18	5/20	5/22	10/25	11/9	12/ 6

表2 果実品質 (農技センター、H11)

品種名	平均重 (g)	果皮色 (CC)	糖度 (%)	果頂裂果		汚損果 率(%)
				率(%)	率(%)	
早 秋	236	6.9	14.8	41	46	
前川次郎	243	8.0	18.0	65	43	